

湘南慶育病院 松本 仁美(理学療法士／リハビリテーション部／科長)

功 績 教育の質を下げることなく、新人を早めに自立させる指導法を導入した功績

推 薦 者 久保 雅昭 (職種 理学療法士／所属部署 リハビリテーション部)

推 薦 理 由 理学療法士の新人教育に2期連続中心的に関わり、2019年度12名、2020年度14名の総勢26名が7月に1日21単位提供することができた。さらにリハビリテーションの提供時間を増やすだけでなく、2020年度は特に全介助歩行練習を14名全員が実施できており、質の高いサービスを提供できる指導を実施した。また、上級者のリハビリテーション場面を動画に編集して指導を受けていない職員も勉強できる環境を作った。

内 容

理学療法士の新人指導に中心に関わっている。

2019年度は12名、2020年度は14名の総勢26名が、7月に1日21単位提供することができました。

従来、リハビリテーション病院は新人指導において11月頃に18単位提供することを目標にしている病院が多く、2018年度は11月を目標にしました。

しかし、松本科長は大学病院での勤務経験が10年以上あり、新人指導経験も豊富なため、大学病院で実施している新人指導の導入を提案し、7月に18単位提供する目標としました。

新人指導を早くすることで患者さんからのクレームが増えたり、担当変更依頼数の増加、リハビリテーション提供中の転倒事例の増加等が予想されましたが、2018年度と比べて変化なく、クレームや担当変更依頼はなく、転倒はあるがレベル3以下でした。

無論、松本科長以外の指導者も負担は大きく、残業も増えます。さらに導入前に他の指導者から時期を早くすることに不安の声もありましたが、教育における問題点を早く抽出し、改善案を提案することで、理学療法部門全体がまとまり、協力が得られていると考えられます。

改善案の代表例が2020年度に導入した全介助歩行練習を7月までに実施できるように教育したことです。3月のチーム編成時から調整し、指導法についてしっかり準備をしてきました。これにより全体のサービスの量(単位数)も増加し、新人本人の自信にも繋がっています。

さらに直近では上級者のリハビリテーション場面を動画で編集するアイデアも導入し、指導を受けた職員以外のすべての職員が技術アップに必要な情報を確認できるようになりました。